

風と大地の芸術祭 2021

主旨

恵庭は縄文時代から、東西交流の盛んな土地だった。カリンバ遺跡のひとつは、太平洋（東の海）と日本海（西の海）の両方から人々を迎え交友関係を結んだ。自然と共生する彼ら彼女らは、サメの歯や、漆の粘り強さを生きるエネルギーに変えた。それらは精巧な髪飾りとなり、鮮やかな朱塗りの縦櫛となった。朱は大地のベンガラ。命の炎。決して燃え尽きることのない人々の願い。ひとの心を激しく揺さぶり、もうひとつの世界へと創造のエネルギーを動かすものである。

縄文から続く人間の歴史を育んできたこの大地。中山久蔵もここで生きた。島松から物語は生まれ、未来の土地に生きる者の誇りとなった。文化遺産から文化資本へ、そしてその土地の文化の豊穡へ。そのために芸術はある。

ENIWA 学とは

2019年、北海道文教大学の教員・学生有志で始まった共同研究グループ。恵庭という土地と歴史、そこに生きる人間と文化を対象とし、それらの関係を、過去・現在・未来のありようから考察する地域学。30年前、恵み野小の子どもたちが作り上げた「漁川物語」の朗読劇を上演（えにあす）、地域と芸術文化に関する公開研究フォーラム（本学記念講堂）、ベンガラ染めWS（郷土資料館）など、地域住民と大学・学生が文化を通して交流する機会を創出し、恵庭の文化を再発見しながら表現を通して再創造する試みを続けている。



林家卯三郎

1999年上方落語家の林家染丸に入門。2002年年季（修行）明けを許される。

天満天神繁昌亭や各地域寄席に出演するほか大阪、北海道、岡山などで定期的に「卯三郎の会」を催す。また「親子で楽しむ落語会」や小中学生を対象にした学校寄席などにも参加し落語の面白さを子供に伝える活動にも努めている。2012年なにわ芸術祭新人奨励賞受賞

チーム絆花

中山久蔵翁物語を現代版組踊で表現するパフォーマンスグループ。文化活動を通じた青少年の人財育成と地域興しを目的としている。

西野美穂 ピアニスト

北海道文教大学人間科学部こども発達学科准教授。関西でのソロ、室内楽等の演奏会をはじめ、恵庭ロートス・ムジークを主宰し多数のコンサートを主催。

加藤裕明 教育学

北海道文教大学人間科学部こども発達学科教授。専門は教育方法、演劇教育。「ENIWA 学」主催。主な論文「演劇教育による協働的創造性育成過程の質的研究—演劇部活動における高校生の変化—」など。

枇本亨洋（ドラマシアターども）

風と大地の芸術祭の舞台・照明・音響を担当。

プログラム

10月15日 (金)	10月16日 (土)	10月17日 (日)
展示作品	舞台作品 1	舞台作品 2
		10:00~11:00 アイヌ民族の口承文芸及び舞踊：ユーカラと舞踊のワークショップ（参加体験型学びの場）
		11:30~12:30 文教大学「ENIWA 学」+ 市民協働プログラム：朗読劇「漁川物語」
16:00~ ベンガラ染めアート展示 ※最終日まで展示	14:30~15:30 朗読劇「銀河鉄道とカリンバの夜のために」 北海道文教大学学生+西野美穂（ピアノ）	14:00~14:20 ミニ講演「中山久蔵と現代」（加藤裕明）
	16:00~17:30 日本の話芸：上方落語（林家卯三郎）	14:30~16:00 チーム絆花ミュージカル「中山久蔵翁物語」
全て入場無料（入場整理券配布：各回とも出演者・観客含め50名 完全入れ替え制）		

【会場】 夢想館 北海道恵庭市島松仲町1丁目2-20